

日本児童文芸家協会

2020年度

児童文化功労賞・協会賞・新人賞・幼年文学賞

プレス用受賞者プロフィールです。

貴媒体にてご紹介いただく際にご活用ください。

一般社団法人 日本児童文芸家協会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-16-3 金子ビル 202 tel/03-3262-6026 <http://www.jidoubungei.jp>

第 59 回児童文化功労賞

◆児童文化の向上発展のために長年努力された方々の功績を称えて表彰する賞で、1959（昭和 34）年、初代会長浜田広介氏らの提唱により発足、今年度の 59 回まで、329 名を顕彰している。（下記、五十音順）

小澤 俊夫（おざわ としお）〔ドイツ文学者〕

【略歴】

1930 年、中国長春に生まれる。小澤昔ばなし研究所所長、筑波大学名誉教授。日本女子大学教授、筑波大学副学長、白百合女子大学教授を歴任。1992 年より日本各地で昔ばなし大学を主宰。また季刊誌『子どもと昔話』を刊行し、独自の昔話研究と実践を展開。昔話本来の語り口に基づいた昔話集『子どもに贈る昔ばなし』（小澤昔ばなし研究所）シリーズの刊行にも力を入れている。主な著・訳書に『グリム童話集 200 歳 日本昔話との比較』『昔話からのメッセージ ろばの子』『小澤俊夫の昔話講座①入門編 こんにちは、昔話です』『ときを紡ぐ 昔話をもとめて』上下巻（以上、小澤昔ばなし研究所）、『昔話の語法』『日本の昔話（全 5 巻）』（以上、福音館書店）、『グリム童話の誕生』（朝日新聞出版）、『ヨーロッパの昔話 その形と本質』（岩波書店）等。2007 年ヨーロッパ・メルヒェン賞（ヴァルター・カーン財団）受賞。2011 年ドイツ・ヘッセン州文化交流功労賞授賞。

★所属 国際口承文芸学会、日本口承文芸会、神奈川県川崎市在住。

なかえ よしを〔絵本作家〕

【略歴】

1940 年、兵庫県神戸市に生まれる。日本大学芸術学部美術科卒業。広告会社博報堂のデザイナーを経て絵本の世界へ。作・なかえよしを／絵・上野紀子のコンビでの絵本は 200 冊を超える。ねずみくんの絵本シリーズは既刊 35 冊。今年 45 周年となる。新作の『ねずみくんはめいたんてい』は上野氏亡き後、今までのねずみくんの絵本の中の絵を使い、なかえ氏がパソコンで合成し組み合わせて仕上げたものである。『扉の国のチョコ』『宇宙遊星間旅行』『ねずみくんのチョコッキ（デビュー作）』（以上、ポプラ社）。『ねこのジョン』『ことりとねこのものがたり』（以上、金の星社）。『ぎったんばっこん』『くるりんこん』（以上、文化出版局）。『ST 氏の手紙』『CHICO』（以上、自費出版）。

1973 年『小宇宙』で国際青年美術家展外務大臣賞受賞。1974 年『ねずみくんのチョコッキ』で講談社出版文化賞受賞。1987 年『いたずらララちゃん』で絵本にっぽん賞受賞。2005 年上野氏とともに巖谷小波文芸賞受賞。

★神奈川県横浜市在住。

第 44 回日本児童文芸家協会賞

『蝶の羽ばたき、その先へ』（小峰書店） 森埜 こみち（もりの こみち）

【選考委員】石崎洋司 大塚篤子 おおぎやなぎちか 杉本深由起 戸田和代 村松定史 山本省三

◆本賞は 2019 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに出版された協会会員著作の児童文学作品のうち、最も優秀な作品に贈られるが、すでに本賞を受賞した著者の作品は除外する。

【選評】

今回は出版社及び協会員からの推薦で 20 作ほどから、次の 5 編が最終選考に残った。『よろしくパンダ広告社』間部香代（学研プラス）、『トクベツな日』白矢三恵（PHP 研究所）、『コロケ堂のひみつ』西村友里（国土社）、『龍神王子！』①～⑤宮下恵菜（講談社青い鳥文庫）、『蝶の羽ばたき、その先へ』森埜こみち（小峰書店）。受賞作は、人の耳に聞こえる最小の音である「蝶の羽ばたき」をタイトルとした耳の不自由な中 2 の少女結の物語。聞こえないと皆に言えない苦しみ、手話仲間との交流による新たな生き方への過程が丁寧に書かれている。重いテーマに真摯に向き合う心打つ作品。ただ、現実の聴覚障害者の絶望感はもっと深刻であろう。作中父親について触れられていないこと、結末に躍動感が欠けることを不満とする意見もあったが、文学性の高さや文章のリズム、描写の的確さ、長編としての技術力が評価され本年の協会賞の栄を冠することとなった。

【略歴】

岩手生まれ、秋田育ち、埼玉在住。東京学芸大学教育学部特殊教育学科豊教育専攻卒。一般財団法人を退職後、2012 年から児童文学の創作を学び始める。翌年から公募への投稿を始め、鹿児島市・鹿児島教育委員会主催「第 34 回子どもたちに聞かせたい創作童話」入選、埼玉県教育委員会主催「第 48 回埼玉文芸賞」準賞、日本児童文学者協会主催「第 9 回日本児童文学投稿作品賞」、ちゅうでん教育振興財団主催「第 17 回ちゅうでん児童文学賞」優秀賞、「第 19 回ちゅうでん児童文学賞」大賞を受賞し、2018 年、大賞受賞作が『わたしの空と五・七・五』と改題され、講談社より発行される（第 48 回児童文芸新人賞受賞）。同年、日本児童文学者協会・小峰書店主催「第 17 回長編児童文学新人賞」を受賞し、受賞作が『蝶の羽ばたき、その先へ』と改題され、2019 年、小峰書店より発行される。日本児童文芸家協会会員、日本児童文学者協会会員、駒草会員。

第 49 回児童文芸新人賞

『あの子の秘密』（フレーベル館） 村上 雅郁（むらかみ まさふみ）

【選考委員】金治直美 北川チハル ささきあり 高橋うらら 土山優 正岡慧子 光丘真理

◆本賞は 2019 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに出版された、著者の第 2 冊目までの単行本を対象とする。創作物語、伝記、ノンフィクション、詩集、絵本も含まれる。

【選評】

今回は出版社及び協会員からの推薦で 22 作が対象となり、次の 6 作品が最終選考に残った。『湊町の寅吉』藤村沙希（学研プラス）、『イナバさん！』野見山響子（理論社）、『十四歳日和』水野瑠見（講談社）、『きつねの時間』蓼内明子（フレーベル館）、『ある日、透きとおる』三枝理恵（岩崎書店）、『あの子の秘密』村上雅郁（フレーベル館）。選考にあたっては、チャレンジ精神、熱、伸びしろといったものを重視した。受賞作は、前半のサイコサスペンスめいた展開からラストまで一気に読ませる。主要キャラ 3 人の会話が軽妙で、物語の緊迫感を緩和しい味となっている。主人公の特殊能力に頼り過ぎて不自然という意見もあったが、作品世界に引きこむ力を高く評価した。

【略歴】

1991年、鎌倉市に生まれ育つ。2011年より本格的に児童文学の創作を始める。賞歴に、第30回アンデルセンのメルヘン大賞入賞「バナナ」、第13回ジュニア冒険小説大賞佳作「ぼくの不思議なアルバイト」など。「ハロー・マイ・フレンド」が第2回フレーベル館ものがたり新人賞大賞を受賞。『あの子の秘密』と改題し2019年にフレーベル館より出版、デビュー作となる。

第3回児童文芸幼年文学賞

『ムカツ やきもちやいた』（くもん出版） かさい まり

【選考委員】上野与志 野村一秋 穂高順也 堀米薫 間部香代 深山さくら 横田明子

※深山委員は自身が候補に残ったため、最終選考を辞退。

◆本賞は日本児童文芸家協会・協会賞から、小学3年生以下を主な読者対象とする幼年童話と絵本の部門を独立させる形で、新たに創設された隔年開催の賞である。審査対象は2018年1月1日～2019年12月31日の2年間に出版、発表された協会会員著作の幼年童話と絵本の単行本である。自費出版、ノンフィクションは含まない。

【選評】

今回は出版社及び協会員からの推薦で66作品が候補に挙がり、最終選考には次の5作品が残った。『きみひろくん』いとうみく（くもん出版）、『こすずめとゆき』深山さくら（佼成出版社）、『となりはリュウくん』松井ラフ（PHP 研究所）、『ふでばこから空』北川チハル（文研出版）、『ムカツ やきもちやいた』かさいまり（くもん出版）。受賞作は、転校生の席が親友の隣になったことで、ムカツとする女の子を描く。やきもちをやくのはだれにでもあること。それを見事に小学生の女の子の気持ちにぴたっと合わせている。しかも教訓めいたところがなく、楽しく読めるのがいい。主人公の心情を描いた物語だが、絵本にして気持ちの変化を場面で見せたことが成功している。読者である子どもたちがより身近に感じ、自分に重ねて読めるという点を評価した。

【略歴】

北海道生まれ。小樽女子短期大学英文科卒業。北海道芸術デザイン専門学校卒業。こどもの心のゆれを丁寧に表示したお話作りを続けている。読み語り用CDをつくり、独自の世界を展開し、全国各地で講演、読み語りを行っている。作品に、『こぐまのクーク物語』シリーズ（KADOKAWA）、『とくべつないちにち』『ぼくとクッキーさよならまたね』（ともに、ひさかたチャイルド）、『くれよんがおれたとき』『ちいさいわたし』（くもん出版）、『えらいこっちゃんのいちねんせい』『きょうりゅうのサンいまぼくはここにいる』（ともに、アリス館）、『じてんしゃがしゃがしゃ』（絵本塾出版）、『ばあちゃんのおなか』（好学社）他多数。日本児童出版美術家連盟会員、日本児童文芸家協会会員、日本文藝家協会会員。